

られたる也けり、

〔淇園文集初編〕墓碣二〕富士谷成章墓誌銘

成章、字仲達、初號層城、後又改用其宅地名號北邊、實某弟也、

〔三哲小傳〕平宣長の大人、字は中衛、常のよび名は本居舜庵、號を鈴の屋のうしといふ、

〔鈴屋集五〕長歌〕天明二年の冬、家のうちに高き屋を造りて、又の年の三月九日の日、友だちをつど

へて、はじめて歌の圓居しける時によめる、

をとめらが、ま手にまきもつ、さく鈴の、五十鈴のすゝの、鈴の屋は、しこのしきやの、丸木屋の、を

屋にはあれど、略○中

鈴の屋とは、三十六の小鈴を赤き緒にぬきたれて、はしらなどにかけておきて、物むつかし

きをりく引なして、それが音をきけば、こゝちもすがくしくおもほゆ、そのすゝの歌

は、

どこのべにわがかけていにしへしぬぶ鈴がねのさやく、かくて此屋の名にもおほ

せつかし、

〔兼葭堂雜錄〕兼葭堂、名は孔恭、略○中 一時庭中に井を穿に、不圖蘆根を得たり、是則ち浪速の蘆な

り、是よりして兼葭堂と號すとぞ、

〔兼葭堂雜錄〕大雅堂、名は無名、字貸成、九霞と號す、或は九霞山樵の字を省きて霞樵とも書り、姓

は池野、俗稱秋平、京師の人なり、

〔翹楚編〕治憲公、文學の御風雅とて、御學問所を稽古堂と稱し、(中略)御號を鷗山と稱し、御園を紫霞

〔先哲叢談五〕佐藤直方

直方、無字號、或謂曰、山崎闇齋、子之師也、淺見綱齋、三宅尙齋、則子之友也、而皆以號稱、子獨無可尊稱